

ハニトの〇〇な話

No.3



皆さんこんにちは。先月の広報で、杉原千畝記念館の様子を話しました。その様子を初めて知って驚いた人が多いかと思います。だって、私もこの仕事を受けたときにこれほど記念館へ来る人がたくさんいると思っていなかったもの…

続けて、今回は記念館での私の仕事についてお話ししたいと思います。

私が記念館にいる目的はイスラエルの来館客を迎えて、記念館の説明をすることでした。しかし、いつからか日本人の団体の方にもお話しをすることになりました。今では、私から見ると、イスラエル人に説明するだけでなく、日本人の来館客に説明することも大事な仕事の一つとなりました。

それはなぜかというと、イスラエル人なら、小さい頃からホロコーストの話を知っていたり、年に一回のホロコースト記念日も経験するので、杉原さんの行動の深い意味を十分理解していると思います。

日本人の場合は、杉原さんの行動が素晴らしいとは思っているが、その当時の背景をほとんど知らない人が多いです。でも、それをもっと詳しく知れば、杉原さんの素晴らしさをより深く理解できると思うからです。

日本人向けの説明をいつも同じ質問で始めます。「ホロコーストという言葉を知っていますか？この言葉の意味がわかりますか？」という質問です。大体の人は聞いたことがあったとしても意味がわかりません。そこで私は「皆殺し」というと、皆さんが驚いて、初めて第二次世界大戦との違いに気づかれます。そう。戦争とは違って、ホロコーストは、主にユダヤ人に対しての一方的な行動でした。その行動の目的はたった一つ。この世からユダヤ人皆亡くす

こと！

6年間続いたこのホロコーストで殺された0才からお年寄りまでのユダヤ人は600万人。八百津町の人口の500倍！…想像できないでしょう。

このユダヤ人を殺したのはナチスだけではなく、ナチスドイツに占領された国々の人も。その当時の状況はユダヤ人を殺すことが良いことで、助けることが一切禁止だったので、助けようとした人は本当にわずかでした。殺された600万人に対して助けようとした人はたった2万6千人です。杉原さんはその一人。

皆さん、この事実を分かった上で杉原さんへの思いがより深まったのではないのでしょうか？

来館客の反応からみると、この話を聞くことによって受ける感動や感激が大きく変わってきます。

記念館を訪れた方が感動を受けると、差別、いじめなどの社会問題について考え直すこともあると信じて、これからも一生懸命この仕事を続けていくつもりです。頑張ります！

国際交流協会からのお知らせ

12月15日(日)に国際料理教室を和知センターで開きます。

クリスマスやハヌカの料理を皆で作って食べよう！

詳しくは回覧、産業課又はハニトまでお待ちしています！

ハニトさんへの質問は
hanito@town.yaotsu.lg.jp までどうぞ！